

アントレプレナーシップ教育の日・米・中比較

経営管理研究科准教授
細沼 藹芳

【概要】

アントレプレナーシップに関する研究は、欧米を中心にこの 30 年間で大きく発展してきた。アントレプレナーシップとは起業家精神を指し、ピーター・ドラッカーが『イノベーションと企業化精神』（1985）で「アントレプレナーシップとは、イノベーションを武器として、変化のなかに機会を発見し、事業を成功させる行動体系のこと」と定義した。また、アントレプレナーシップは、一人の人間が生まれ持っている気質や才能ではないとの指摘があった。ピーター・ドラッカーによれば、「企業家精神の基礎になるものは、直観的な能力ではなく、実に論理的かつ構想的な能力である」。要するに、企業家精神は体系的なものであり、学習して身につけることができるものと考えられる。よって、我々ビジネススクールにとって、若者にアントレプレナーシップ教育を行い、時代を担うアントレプレナーを輩出することが急務である。

一方、GEM の（Global Entrepreneurship Monitor）の調査によれば、起業活動率（TEA）に関して、アメリカや中国に比べ、日本は極めて低い水準である。では、なぜ日本の起業活動率が低いのだろうか。日本の教育機関とアメリカや中国のアントレプレナーシップ教育の違いとはなにか。現代の教育機関に求められているアントレプレナーシップ教育とは一体なにかなどの課題が見えてくる。

本論では、まずアントレプレナーシップ教育に関する先行研究を行う。次に日本、アメリカや中国におけるアントレプレナーシップ教育の特徴を調べる。最後に三者の差異を考察し、アントレプレナーシップ教育の本質について考察するものである。

【キーワード】

アントレプレナー アントレプレナーシップ アントレプレナーシップ教育

【目次】

- I はじめに
- II アントレプレナーシップの諸概念に関する先行研究
- III 日本におけるアントレプレナーシップ教育の特徴
- IV アメリカにおけるアントレプレナーシップ教育の特徴

アントレプレナーシップ教育の日・米・中比較

V 中国におけるアントレプレナーシップ教育の特徴

VI 最後に～アントレプレナーシップ教育への示唆

I はじめに

アントレプレナー及びアントレプレナーシップ¹に関する研究は、欧米を中心にこの30年間で大きく発展してきた。Eric G.Flamholtz & Yvonnet Randle (2000)は、「20世紀後半は、アントレプレナーが爆発的に急増した時期である²」と述べた。このような環境下にあつて、必然的にアントレプレナーシップ教育が不可欠になると考えられる。

一方、27年度GEMの(Global Entrepreneurship Monitor)の調査によれば³、アメリカの起業活動率(TEA:Total Entrepreneurship Activity)は13.8%、中国は15.5%、日本3.8%であり、アメリカや中国に比べ、日本は極めて低い水準となっていた。では、なぜ日本の起業活動率が低いのだろうか。日本の教育機関とアメリカや中国のアントレプレナーシップ教育の違いとはなにか。現代の教育機関に求められているアントレプレナーシップ教育とは一体なにかなどの課題が見えてくる。

本論では、まずアントレプレナー及びアントレプレナーシップ教育に関する先行研究を行う。次は日本、アメリカや中国におけるアントレプレナーシップ教育の特徴を調べる。最後に、アントレプレナーシップ教育の有効性を高めるため、考えるべき課題を提起する。

II アントレプレナーシップの諸概念に関する先行研究

1. 海外における先行研究

アントレプレナーに関する研究は20世紀初頭まで遡ることができる。J. A. Schumpeter(1934)によれば、新しい製品やサービス、新しい生産方法、新しい組織形態、もしくは新しい原材料を開拓することによって現在の経済秩序を破壊してしまうような人をアントレプレナーと定義した。さらに、Schumpeterは新しい企業を設立することによって、この創造的破壊が実現可能になり、また既存の企業の中で創造的破壊も可能であると指摘した⁴。

その後、David C. McClelland (1961)によれば、アントレプレナーは企業または事業を組織し、その生産力を強くする者であると定義した⁵。R. F. Hebert & A. N. Link (1982)は、当時各研究分野におけるアントレプレナーの研究を調べ纏めた⁶。この研究によれば、J. A. Schumpeterの「アントレプレナーは資源の新結合を実行する者」という定義が研究者たちに大きな影響を与えていると述べた。

さらに、William Bygrave & Andrew Zacharakis (2009)において、J. A. Schumpeterが定義した概念を肯定したが、アントレプレナーは「新しい製品サービス、新しい生産方法、新しい組織形態、もしくは新しい原材料を開拓することによって現在の経済秩序を破壊してしまうような人」

だけではなく、「我々は、新しく事業を始める人はすべて起業家と捉えることにする。我々が定義するところの起業家は、事業機会を認識し、その事業機会を実現するために組織を作りあげる人である。そして、起業活動とは事業機会を実現するために行う組織作りや事業機会を認識することに伴う活動、行動、そして機能のすべてを含んでいる⁷」と定義した。アントレプレナーの定義が従来の「資源の新結合を実行する者」からより広く定義されるようになった。

アントレプレナーシップに関して、ピーター・ドラッカー（1985）は、「企業家精神とは気質ではなく行動である。しかもその基礎となるのは、勘ではなく、原理であり、方法である⁸」と指摘した。要するに、アントレプレナーシップは直観的なものではなく、論理的かつ体系的なものだと理解できる。

アントレプレナーシップの重要性について、Eric G.Flamholtz & Yvonne Randle（2000）によれば、「起業家精神は、本日の経済の原動力となっている。ベンチャー企業は、起業家やその従業員の利益ばかりではなく、経済全体の利益のためにも成功しなければいけない。我々は、心の持ちようの一種である起業家精神は、企業文化を構成するためには不可欠の要素であり、維持すべきものだと考えている。新製品や新しいプロセスの機会を見出して革新を起こすために、組織は常に起業家精神を保つべきである⁹」と強調した。

一方、William Bygrave & Andrew Zacharakis（2009）によれば、起業活動の条件には「資金調達の利用可能性、創業支援のための政府の政策や施策、研究開発の移転、物的及び人的なインフラストラクチャー、起業活動のための教育と訓練、社会的規範と文化、そして国内市場の開放度などが含まれる¹⁰」と指摘した。

2. 日本における先行研究

鈴木（2007）によれば、「アントレプレナーとは、新しい事業を創める（企画し、組織し、経営する）「企業家」あるいは「起業家」のことである。

安田（2010）によれば、「アントレプレナーとは、イノベーション（革新活動）を計画・実行する人である¹¹」と述べた。

アントレプレナーシップ教育について、河野・岩田（2009）はアントレプレナーシップ教育にあたって、コンピテンシーという概念が重要であると指摘した¹²。この研究によれば、「コンピテンシーという概念は、単なるスキルや知識ではなく、スキルや知識を用いて職務で好業績を上げる方法、さらには、その人の特性までに入り込む概念である。個人の心理的要素に深く絡む内容を、教育によって学生に習得させるには、ある程度の時間が必要であろう。それゆえ、早期の起業家教育には大きな意義がある¹³」と述べた。

アントレプレナーシップ教育の実態や教育方法に関して、粟島浩二（2012）が、「アントレプレナーシップ教育は大学において実現可能であり、これからの時代を担う人材像ということからも意義深いとされながら、実際の学生にはこうした教育の意義が伝わっていない、あるいは訴求していないのではないか、という問題である¹⁴」と指摘した。この研究によれば、「アントレプ

アントレプレナーシップ教育の日・米・中比較

レナーシップ教育に関して、大学の認識と学生の認識に差異があること、ビジネスプランを作成し、プレゼンテーションを行うことが、人間的あるいは社会人としての成長を促すこと、大学の外で活動することがアントレプレナーシップを育てること、大学においてアントレプレナーシップを育成することは可能で、多様な方法があること、大学におけるアントレプレナーシップ教育の成果は、ベンチャー企業の設立件数だけで測られるものではないこと、同じ課題を抱える大学や支援組織の間で「緩やかなネットワーク」を形成し連動協力体制を構築することが重要であること」。

アントレプレナーシップ教育に関して社会が大学に期待していることが明らかになった。

Ⅲ 日本におけるアントレプレナーシップ教育の特徴

1. 大学・大学院による教育プログラムの実施

「大学における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する法律」（1998年）と「産業活力の再生及び産業活動の革新に関する特別措置法」（1999年、2009年改正）といった法律が施行されることによって、大学発ベンチャーが一つ重要なキーワードになって、大学からのイノベーション創出が社会に求められるようになった。また、アントレプレナーがいなければ、新しい事業が生まれて来ない。アントレプレナーの育成が不可欠である。そのため、大学におけるアントレプレナーシップ教育が注目されるようになり、教育プログラムを実施する大学院、大学が増えてきたと思われる。大和総研「平成20年度大学・大学院における起業家教育実態調査」によれば、「日本の大学の46.1%にあたる247校に起業家教育の講座がある。起業家教育を目的とするコース・専攻を設置している大学・大学院は、全体の約1割の55校であった。授業以外でも起業家教育に関連するプログラムやイベントを設けているのが約2割に達する。受講生によるプレゼンテーションやグループ演習を行う「生徒参加実践型授業」は、学部で約2割、大学院で約3割を占める¹⁵⁾。

以下では大学院、大学によるアントレプレナーシップ教育のプログラムを紹介する。

(1) 大学院の教育プログラム～東京工業大学大学院「イノベーションマネジメント研究科」

2005年4月に、東京工業大学大学院はイノベーションマネジメント研究科を創設した。これは、MOT（技術経営）専門職大学院（専門職学位課程：修士）であり、「技術を創造し、知的資産として事業化・社会化するイノベーション創出サイクルのマネジメントに秀でた実践的人材と研究者を育成する」¹⁶⁾ことを目的としている。当教育プログラムが目指す教育理念の一つは、アメリカ流MOTの優れた部分を導入すること。もう一つは、日本の「ものづくり」の強みと日本的企業文化に根ざした「和魂洋才」とも言うべき日本型MOTの教育を通じて、世界に通用するMOT人材を育成することである¹⁷⁾。そして、教育目標は「技術経営戦略」「知財マネジメント」「事業創出」「情報技術戦略」「ファイナンス」の5つのマネジメントスキルと「リーダーシッ

プ」を持つ人材を育成することである。さらに、研究科には博士後期課程が設けられ、将来の MOT 教育・研究を担う人材も育成している。

(2) 大学の教育プログラム～立命館大学「産学協同アントレプレナー教育プログラム」

立命館大学は 2005 年に、「産学協同アントレプレナー教育プログラム」を立ち上げ、大学で学生アントレプレナーを輩出することが目的である。この教育プログラムは主に経営、経済、理工、情報理工など 6 学部の 2, 3 年生を中心に、16 単位のパッケージプログラムを実施する。主に「アントレプレナーシップ論」「ベンチャー企業論」「事業開発論」「ベンチャーファイナンス」など基礎科目群 4 科目、プログラム特殊講義など展開科目群 4 科目、「ビジネス・インターンシップ」「テクニカルビジット」など実践科目群 2 科目によって構成される¹⁸。このプログラムは関西で一番早く立ち上げられたアントレプレナーシップ教育プログラムである。

当プログラムで育てられた学生は、「グローバルリーダー育成カップ 2009」優勝、「第 11 回キャンパスベンチャーグランプリ大阪」ビジネス大賞（2010）、「ビジネスプランコンテスト「みんなが叶えたい夢ランキング」優勝（2011）など沢山の成果を出した¹⁹。

(3) 大学によるアントレプレナー研究会の開設～県立広島大学ベンチャービジネス研究会

県立広島大学は 2005 年にベンチャービジネス研究会を設立し、一部の学部生に対して、「ビジネスプランの作成」の指導を行なった。この教育プログラムが実施される一つの重要な目的は、大学生が起業に対して関心を持ち、起業マインドを高めることだと考えられる。この研究会は、2005 年に一期生 5 名によって少人数でスタートしたものであるが、十数年間で広島ヤングベンチャー賞銀賞受賞（2006）、第 5 回キャンパスベンチャーグランプリ佳作受賞（2007）、第 6 回キャンパスベンチャーグランプリ佳作受賞（2008）など沢山の成果を得られた²⁰。

研究会の成果について、栗島浩二（2012）は以下のように語った。「こうしたビジネスアイデアを形にしていくプロセスを通じて、学生は総合的な経営センスやマネジメントあるいは社会に対して広く関心を持つようになる。また、プランを社会人、特に現役の企業人や専門家の前でプレゼンテーションすることも大きな自信につながり、人間的あるいは社会人としての成長を促している²¹」。

2. 民間教育機関による低年齢者向けの短期教育プログラムの実施

日本において、近年低年齢者向けの教育プログラムが増えている。

(1) 「ジュニアベンチャー プログラム（少年少女起業体験プログラム）」

日本テクノロジーベンチャーパートナーズが「ジュニアベンチャー プログラム（少年少女起業体験プログラム）」を実施している。この教育プログラムの目的は、起業の流れの実体験とアントレプレナーシップを育むことである。ホームページによれば、これは小学生から中高生まで

アントレプレナーシップ教育の日・米・中比較

を対象に、会社設立を体験するアントレプレナー教育プログラムで、ベンチャーキャピタリストや公認会計士、銀行員などのサポートを受けながら、「ビジネスプランの作成」「株券による資金調達」「販売活動」「株主総会」「利益配当」を学習する。また、実際に現金を使ってこの一連の流れを体験していくプログラムである²²。このプログラムは1999年11月にスタートされ、東京都大田区で「起業体験キャンプ」が実施された。その後2000年から2009年の間、徳島県、群馬県、東京都にて開催されてきた²³。

(2) Willseed 社の「起業家教育プログラム」

Willseed社はアントレプレナー教育促進事業として、小中高学生を対象に「起業家教育プログラム」を実施した。このプログラムは、会場を一つの世界として、学生たちはいくつかの国(チーム)に分かれてビジネスを行う設定である。それぞれの国(チーム)に様々な資源、技術力、資金が渡され、それを使って製品を生産し「製品取引所・銀行」で販売し換金するというながれである。ゲームのような感覚で社会をイメージし、ビジネスの疑似体験を通じて、社会に対する興味を高めることが目的である。2002年から全国630小中高校、5万人以上の学生がこのプログラムを受け、保護者から高い評判を受けている²⁴。

3. 特徴

- (1) アントレプレナーの認知教育・起業準備教育を継続的に実施している。
- (2) 小中高生向けのプログラムが実施されているが、短期的なものが多い。
- (3) アントレプレナーの育成を地域活性化の重要施策の一つとして注目している。各地方の大学などは教育実施機関として積極的にその役割を果たしているが、教育プログラムの内容はバラツキがある。

IV アメリカにおけるアントレプレナーシップ教育の特徴

1. アメリカにおける起業活動の活発化

William Bygrave & Andrew Zacharakis (2009)によれば、アメリカには約2400万の企業があり、その99.5%はスモールビジネスである。スモールビジネスはハイテク部門で働く労働者の39%を雇用し、従業員1人あたりの特許出願件数では、大企業の14倍もの生産性を誇っている。また、スモールビジネスのうち半分はパートタイム型であり、その他の半分はフルタイム型である。さらに、フルタイム型のうち半分は従業員を雇っていない自己雇用型オーナーである。なお、アメリカでは、どの時点においても、常に「懐妊期」²⁵もしくは誕生過程にあるアントレプレナーは700万程度が存在していると言われている²⁶。アメリカにおける起業活動が非常に活発化していると思われる。

2. アメリカにおけるアントレプレナー教育の浸透

アメリカにおいて、起業活動に関する教育や訓練は、着実に誰もが受けられる状態に近づいていると言われている。知識やスキルの蓄積度合いは、過去 20 年にわたって着実に充実し、起業活動の成功率を高めてきた指摘されている。また、2002 年現在アメリカの 61% の大学はアントレプレナー教育コースが設けられ、科目聴講から、準学士、学士、修士、博士に至るまでの段階でアントレプレナーシップを学ぶことができる²⁷。

William Bygrave & Andrew Zacharakis (2009) によれば、「1970 年代、起業活動を訓練する先駆者が彼らのプログラムを中心にビジネスプランの作成を据えるようになって以来、定着するまで長い時間をようしたことであり²⁸」と指摘された。

現在、アメリカにおけるアントレプレナーシップ教育は主に以下 3 つの教育目標を中心として展開していると言われている。1 つ目は、学習することによって、起業の基本知識を学ぶ。2 つ目は、学習することによって、アントレプレナーシップが身につく。3 つ目は、学習することによって、アントレプレナーになり、新しい事業を起こす。この教育目標を達成するため、以下の 4 つの施策がある。1 つ目は、起業グランプリを行い、学生の創業意欲を高め、大学生起業を促す。2 つ目は、アントレプレナーシップ教育の専門機関を構築し、体系的にアントレプレナーシップ教育を行う。3 つ目、各種法律を整備し、起業環境の整備や資金確保に努める。4 つ目は、大学機関によって、アントレプレナーシップ教育に関する研究を積極的に行い、有効的なアントレプレナーシップ教育プログラムを開発する²⁹。2002 年、このようなプログラムは、あらゆる性別、地域、そして年齢層などに浸透している。

3. 各種の教育プログラム

(1) 大学の教育プログラム

1947 年、ハーバード大学の Myles Mace 教授は「Management of New Enterprise」という科目を開設した。この授業はアントレプレナーシップ教育の初授業と言われている³⁰。その後、他の大学もアントレプレナーシップ教育プログラムを開設した。中でも、マサチューセッツ工科大学、スタンフォード大学及びバブソン大学のプログラムが特に注目されている。

「マサチューセッツ工科大学 (MIT) のプログラム」

MIT の校訓はラテン語「Mens et manus」で、「心と手」という意味ある。この校訓に基づいて、MIT は理論と実践を組み合わせ、アントレプレナーシップ教育カリキュラムを作り上げた。MIT のホームページによれば、同校の「dual-track faculty」モデルは学問と実務を結び付け、学生は教室で幅広い視点で学ぶことができる。さらに、学習した理論知識を実践できる機会を学生に与えていることこのカリキュラムの特徴である。具体的には、「エンジニアリングの起業家精神：創業者の旅」「スタートアップのための資金調達戦略」「エンジニアリングのマネジメント」「グローバルな製造革新とアントレプレナーシップ」などの科目が設定されている³¹。

アントレプレナーシップ教育の日・米・中比較

「スタンフォード大学のアントレプレナー研究拠点 STVP」

STVP (Stanford Technology Ventures Program) はスタンフォード大学のアントレプレナー研究拠点である。STVP は経営理工学科と連携して、大学の学部生および大学院生の両方に、先進的なアントレプレナーシップ教育とイノベーションコースを設けている。コースにはマーケティング、戦略、イノベーション、組織行動、創造性、財務、法律、ベンチャー形成などの科目が設定されている。また、STVP の一つ重要な特徴は正式の科目の他、特別なプログラムや世界各国の学生との共同ワークショップを設けてあることである³²。

「バブソン大学のプログラム」

バブソン大学は学部生に対して、カリキュラムは3段階にわけて構成される。

第1段階は「発見」段階 (Discover Your Opportunities/Years 1-2) で、[マネジメントとアントレプレナーシップ]などの入門科目を中心に行われる。

第2段階は「探索」段階 (Explore Our Curriculum/Years 2-3) で、スペイン語、中国語などの言語を習得し、知識を広げる時期である。分析やコミュニケーションのスキルを向上させることが目的である。また、情報技術やマーケティングなどの科目を設け、CEOレベルの戦略的課題の洞察力を得ることを目指す。

第3段階は「専攻」段階 (Focus Your Learning/Years 3-4) で、学生各自の将来にフォーカスしたカリキュラムが設けられている。学生はインターンシップやコンサルティングプログラムなどを通じてキャリア選択を行う。海外でのプログラムも設けている³³。

(2) 「アントレプレナーの卵」向けの教育プログラム

2012年、シリコンバレーのベンチャーキャピタリストであるTim Draperはドレイパー大学を創立した。Tim Draperは「To change the world we have to change education」という理念に基づいて、若者向けのアントレプレナー教育プログラムを実施した。Tim Draper氏はアントレプレナーに最も必要なものはスキルだけではなく、「right attitude」(正しい心構え)であると強調している。具体的な教育プログラムには以下3つの特徴がある。

1つ目は、短期集中プログラムであること。

ホームページによれば、年間、7週間前後の短期集中プログラムを数回開催している。カリキュラムのサンプルとして「Vision & Future」「Legal & Justice」「Creativity」「Money & Resources」「Evangelism」「Survival」「Speed & Strength」「Special Powers」が上げられている。事務局スタッフKim氏へのインタビューによれば³⁴、当校はビジネスプランの作成という科目がない、一般のビジネススクールによくあるファンナンス、事業戦略などスキル中心のカリキュラムよりは「right attitude」を中心としたマインドセットなどのプログラムが充実している。

2つ目は、プログラムの中に、ユニークな内容が含まれていることである。

修了生Elisa氏へのインタビューによれば、毎朝、受講生たちは「Superhero Oath」と

呼ばれる大学の信条を朗読する必要がある。Elisa氏は「Superhero Oath」の中の、「I'll fail and fail again till I succeed.」という言葉に一番共感したそうだ。Elisa氏はこの大学で「失敗を恐れず挑戦し続けること」の大切さを学んだとのことであった。また、Elisa氏によれば、プログラムの内容は非日常的なものが含まれている。例えば、受講生は「20階から卵が割れないように落す」「船を作って河を渡る」など色々なミッションが言い渡される。このような課題をどうやって解決するかということでアントレプレナーとしてのマインドセットが日々鍛えられる。

3つ目は、シリコンバレーの著名なアントレプレナーをスピーカーとして招き、トークセッションを行うことである。

過去のスピーカーには、Pretotype Labsの創設者& Googleの元エグゼクティブであるAlberto Savoia氏、AT & TのエコシステムとアウトリーチディレクターであるFaraz Hoodbhoy氏、InfoSpaceの創設者であるNaveen Jain氏などが含まれている³⁵。

(3) 児童向けの教育プログラム

「日本経済新聞」の記事によれば、カリフォルニア州シリコンバレーの公立学校は、小学生低学年の児童に、「基礎的な学習力、主体的な調査力、簡潔に表現する文書力、彩りのある図や絵を書く表現力、往来する人を立ち止まらせるためのアートや仕掛けといった創造力、そして人の前でプレゼンするコミュニケーション力³⁶」などアントレプレナーが必要としているスキルのトレーニングが繰り返し行われている。

また、記事によれば、小学校には小さな農場が設けられている。子ども達はそこで動物を飼育し、野菜などを栽培する。そして毎週木曜日放課後にマーケットを開き、農場で収穫した物を販売し、売上が小学校の活動に還元される仕組みである。子ども達はこのようにビジネスを学んでいる。

4. 特徴

- (1) アントレプレナー教育は幅広く普及されている。特に、小学校低学年から継続的にアントレプレナーの教育を行い、子どもたちの学習力、思考力、創造力などを育む。
- (2) アントレプレナーの育成だけでなく、アントレプレナーをサポートする体制も完備している。
- (3) 教育内容は具体的なノウハウだけではなく、起業マインドに関する教育も力を入れている。

V 中国におけるアントレプレナーシップ教育の特徴

1. 中国における起業活動の特徴

張玉利・趙偉・寺澤朝子(2007)によれば、2006年頃、中国における起業活動は以下4つの特徴がある³⁷。

アントレプレナーシップ教育の日・米・中比較

- (1) 中国では、大学を卒業したとしても、約4分の1の学生は就職先がない³⁸。既存企業の雇用機会を増加させるにも限界があり、失業者に仕事を与えるよりもむしろ失業者が自ら起業できるように教育していくことが急務となっている。
- (2) 起業タイプは「生存型起業」（食品や衣料の小売店、食堂などの起業）と「機会型起業」（社会においてビジネスチャンスを発見し、提供する製品やサービスによつての起業）の2種類がある。また、「生存型起業」は全体の6割を占めていた。
- (3) 男性に関して、起業家と学歴との因果関係は認められないが、女性起業家と学歴の因果関係が認められる。
- (4) 中国の起業家は、起業に関する教育を受けず、自らの経験と熱意のみで行動するため、失敗に終わる可能性が少なくない。

中国人の起業意識が非常に高いと言われているが、生存型起業が多いことが問題だと考えられる。これを改善するためにアントレプレナーシップ教育が不可欠だと思う。

2. 中国におけるアントレプレナーシップ教育の概況

1989年11月、国際連合教育科学文化機関の「21世紀教育国際討論会」が北京で開かれた。中国ではこれを契機にアントレプレナーシップ教育について議論が行われるようになった³⁹。1999年1月、中国教育部は「21世紀における教育振興計画」を発表し⁴⁰、2002年中国教育部が清華大学、中国人民大学、上海交通大学、南京経済大学など9つの大学でアントレプレナーシップ教育を導入した⁴¹。2007年時点、80%以上のMBA教育機構において、アントレプレナーシップ教育を実施しているが、アントレプレナーシップ教育を一つの専攻としては設けていない⁴²。アントレプレナーシップ教育を強化するため、2017年2月教育部は北京大学、清華大学、北京工業大学など99校の大学を「全国アントレプレナーシップ教育モデル校」として指定し、それらの大学のプログラムが全国の他の大学に普及された。中国におけるアントレプレナーシップ教育がさらに普及されていくものと理解できる。

3. 各種の教育プログラム

- (1) 国家指定教育モデル校のプログラム

清華大学の教育プログラムの特徴：

- ①清華大学のMBAプログラムでは、受講生は1年目にはマネジメント基礎、経営分析関連科目、グローバル関連科目など必修科目を履修する必要がある。2年目からは10のコース（ベンチャーキャピタル、アントレプレナーファイナンス、特許と知的財産権など）から選択し、履修していくスタイルである⁴³。
- ②学生に起業のためのプラットフォームを提供する。2010年、学生たちが自発的に「創客空間」とよばれる学生団体を設立した。目的は学生がテクノロジーと芸術を理解し、創造力とイノベーション力を鍛えることである。その後、清華大学の基礎工業訓練センターは企業と共同で

「i.center」と呼ばれる研究機関を設置し、新技術の実践とイノベーション創出を目的としている。さらに、「X-Lab」と呼ばれるアントレプレナー教育機関を設立された。「創客空間」、「i.center」と「X-Lab」この三つの機関が一つ大きなプラットフォームを構成し、アントレプレナーを育成している⁴⁴。

- ③「教員+」と呼ばれるプログラムを実施する。アントレプレナー教育担当の教員を中心に、実務家教員や各学部、研究科の教員を加え、サポートチームを形成させる。このサポートチームが様々な方面から受講生をサポートし、起業を促す。さらに、世界トップの起業家を顧問として迎え入れ、受講生の起業をサポートする⁴⁵。

南京財経大学プログラムの特徴：

南京財経大学プログラムの特徴は「教育・実践・孵化（インキュベーション）」の一体化教育である⁴⁶。

- ①教育について：大学生を対象に「アントレプレナーシップ基礎」「アントレプレナー実践」「専門職マネジメント基礎」などの科目を開講し、基礎教育を行う。実際のアントレプレナーを講義に招き、アントレプレナーを身近に感じさせることに力を入れている。
- ②実践について：実務家教員および地方政府、地域社会など機関を通じて、学生は学内の講義だけでなく、学んだ知識を実践していく機会を提供する。
- ③孵化（インキュベーション）について：2015年10月に「官・産・学・研・資」共同で「創新創業園」を設立した。施設の面積は凡そ2000㎡、初期の入居者はベンチャー企業約30社である。その内、在校生が起業した企業23社、卒業生が起業した企業5社であった。大学の教員側はサポートチームを設置し、ビジネスプランの作りや資金調達などの面で入居者をサポートする。

(2) 女性対象のアントレプレナーシップ教育

向輝・雷家驩（2011）⁴⁷によれば、男性より女性の起業意欲が高い。一方、Robb, Coleman & Stangler（2014）は⁴⁸、「1997年～2015年の間、アメリカの起業増加率は51%であるが、女性の起業増加率は74%で、女性による起業はアメリカ経済成長の起爆剤になる」と指摘した。近年、中国において、女性による起業が注目されるようになり、教育機関は女性を対象にしたアントレプレナーシップ教育も力を入れ始めている。

浙江大学の女性アントレプレナー育成プログラム⁴⁹：

2010年5月、浙江大学はオクスフォード大学と共同で「中国女性創業能力開発プログラム」を設置した。両大学の教員は受講生に対して「アントレプレナーシップ基礎」「起業チャンス開発」「ビジネスプラン構築」「財務と会計」「コーポレーションガバナンスと女性のリーダーシップ」などの講義を行った、受講期間は5か月間である。受講生は理論教科の修了証書を取得した後、実際のインキュベーションの段階に入る。起業した受講生に対して、担当教員は3年～5

アントレプレナーシップ教育の日・米・中比較

年間の無償コンサルのサポートを提供する。さらに優先的にゴールドマン・サックス社からの投資をうけることができる。毎年 100 名程度の女性起業家を育成する予定で、2013 年時点、既に 507 名の女性起業家が育成された⁵⁰。

4. 特徴

- (1) アントレプレナーの育成は重要な国家政策の一つとして注目され、急速に普及している。
- (2) 「教育・実践・孵化（インキュベーション）」の一体化教育が注目され、全国的に普及している。
- (3) 女性による起業が期待され、女性向けの教育プログラムが増えている。

VI 最後に～アントレプレナーシップ教育への示唆

日本、アメリカ、中国におけるアントレプレナーシップ教育を概観して、アントレプレナーシップ教育の有効性を高めるために、次の 5 つの観点から考える必要があると主張する。

1. 基礎教育の段階から教育を行う。

アメリカや中国に比べ、日本において「起業」することは最も一般的なライフスタイルではないので、初等・中等教育の時期において、「起業」というライフスタイルを選択肢の一つとして教育プログラムに加えることが一つ重要な課題だと考えられる。基礎教育の段階から子どもたちに社会やビジネスの実践を体験させ、創造力と柔軟性を育むことが大切であろう。

2. 地域発展とアントレプレナーシップ教育との一体化

アントレプレナーシップ教育は、産官学連携の中で進める地域活性化施策の重要テーマとして位置付けされることが大切である。要するに、教育機関は地域発展施策において人材育成という重要な役割を果たし、地域活性化政策と一体化させることが重要である。一方、アントレプレナーは地域からサポートを受け、町興し、地域興しを通じて夢を叶えると同時に、地域発展に貢献できる。

3. 女性向けのアントレプレナーシップ教育を強化する

日本における女性起業家の育成は一つ重要な課題だと考えられる。2015 年 8 月 28 日に「女性活躍推進法」が国会で成立され、2016 年 4 月に施行するようになった。女性の活躍推進に際して、政府は「すべての女性が輝く社会をつくる」という最重要課題を打ち出し、女性活躍の推進として「多様な人材を活かした経営の推進」「女性の再就職支援」「女性の起業支援」の取り組みを行う⁵¹。一方、調査によれば、「女性起業家は男性起業家比べて創業時の課題として「創業に関する知識・ノウハウ不足」や「事業に関する専門知識・ノウハウ不足」を感じており、創業時の支援として、『同じような立場の人（経営者等）との交流』を求める人の割合が多い⁵²と

指摘されている。女性向けのアントレプレナーシップ教育プログラムとサポート体制の構築が急務であろう。

4. 教育内容とサポート体制の整備

教育内容は基礎的な、専門的な知識だけではなく、起業前の心構えであるマインドセットをサポートする必要がある。また、アントレプレナー同士のネットワーク、情報収集のネットワークなどの人的ネットワークの形成のサポートが必要かつ重要であろう。

5. 教員の質の向上

アントレプレナーシップ教育の普及にあたって、教員の数を含め、教員の指導の質を向上することが重要な課題である。優秀な教員組織を構築し、教員研修、海外大学間の提携、海外優秀教員の招聘などの方法で教員のレベルを高めていく必要がある。また、教員の構成の多様化も重要だと考えられる。教員は大学教授、ベンチャーキャピタル、アントレプレナーなど様々の方によって構成され、教員間の切磋琢磨を起し、教育レベルの向上を図ろう。

-
- 1 アントレプレナー(Entrepreneur)という言葉は、日本では「起業家」「企業家」というような翻訳されることが多い。そのため、アントレプレナーシップ(Entrepreneurship)という言葉は「起業家精神」「企業家精神」と翻訳されることが多い。本稿では、「アントレプレナー」と「アントレプレナーシップ」と称す。
 - 2 Eric G.Flamholtz & Yvonnet Randle(2000). Growing Pains: Transitioning from Entrepreneurship to a Professionally managed Firm. 4th Edition. pp.1.
加藤隆哉(監訳)『アントレプレナー マネジメント・ブック』ダイヤモンド社、2001年、pp.1。
 - 3 GEM(Global Entrepreneurship Monitor)「GEM 2014 Global Report」pp.37-40。
<http://www.gemconsortium.org/report> (2017年8月20日閲覧)。
 - 4 Joseph A. Schumpeter(1934), The Theory of Economic Development, OXFORD UNIVERSITY PRESS, 1961, pp.74-76。
 - 5 David C. McClelland. (1961). The Achieving Society. Princeton, N. J.: D. Van Nostrand. 532p.
 - 6 R. F. Hebert & A. N. Link(1982). The Entrepreneur: Mainstream Views and Radical Critiques. Praeger 2nd Edition. pp.107-108.
 - 7 William Bygrave & Andrew Zacharakis(2009). Entrepreneurship. 2nd Edition. pp.3.
高橋徳行・田代泰久・鈴木正明(訳)『アントレプレナーシップ』日経BP社、2009年、pp.3。
 - 8 ピーター・ドラッカー(1985)『イノベーションと企業化精神』ダイヤモンド社、2016年、pp.3。
 - 9 Eric G.Flamholtz & Yvonnet Randle(2000). Growing Pains: Transitioning from Entrepreneurship to a Professionally managed Firm. 4th Edition. pp.3.
 - 10 William Bygrave & Andrew Zacharakis(2009). Entrepreneurship. 2nd Edition. pp.27.
 - 11 安田聡子「個人を単位分析とするイノベーションおよびアントレプレナー研究の台頭：スター・サイエンティスト、社会起業家から戦略的アントレプレナーシップまで」『関西学院大学商学論究』第57巻4号、pp.103。
 - 12 河野良治・岩田一哲「起業家教育についての一考察—中核人材へのコンピテンシー論アプローチ—」

アントレプレナーシップ教育の日・米・中比較

- 高松大学紀要. 51, 2009年, pp.45。
- 13 河野良治・岩田一哲, 同稿, pp.62。
- 14 粟島浩二「大学におけるアントレプレナー教育の現状と課題—県立広島大学ベンチャービジネス研究会の活動を中心に」県立広島大学経営情報学部論集第4号, 2012年, pp.133。
- 15 大和総研「平成20年度大学・大学院における起業家教育実態調査」
<http://www.meti.go.jp/policy/newbusiness/kigyoukakyouikuonpenhonbun.pdf> (2017年9月20日閲覧), pp.8。
- 16 東京工業大学大学院「研究科長挨拶」http://www.mot.titech.ac.jp/im_outline/im_message/ (2017年8月20日閲覧)。
- 17 「研究科の理念と教育目標」http://www.mot.titech.ac.jp/im_outline/im_rinen/ (2017年8月20日閲覧)。
- 18 立命館大学ホームページ <http://www.ritsumeit.ac.jp/ba/entre/outline/> (2017年9月20日閲覧)。
- 19 立命館大学HP <http://www.ritsumeit.ac.jp/ba/entre/activity/result/achievement.html/> (2017年9月20日閲覧)。
- 20 粟島浩二(2012), pp.135。
- 21 粟島浩二(2012), pp.135。
- 22 日本テクノロジーベンチャーパートナーズHP: www.ntp_outline.htmlvp.com/jv (2017年9月20日閲覧)。
- 23 http://www.ntvp.com/jvp_program.html (2017年9月20日閲覧)。
- 24 Willseed社HP <http://www.willseed.co.jp/youth/> (2017年9月20日閲覧)。
- 25 懐妊期のアントレプレナーとは、新しい事業を始めようとしているアントレプレナーのことであり、新規ベンチャーのアイデアを持ち、そのアイデアを実現に向けて、少なくとも何らかの準備を行っている者を指す。
- 26 William Bygrave & Andrew Zacharakis(2009). Entrepreneurship. 2nd Edition. pp.4-5.
- 27 William Bygrave & Andrew Zacharakis(2009). Entrepreneurship. 2nd Edition. pp.33-76.
- 28 William Bygrave & Andrew Zacharakis(2009). Entrepreneurship. 2nd Edition. pp.33.
- 29 郭麗君・劉強・盧向陽「中外大学生創業教育政策的費額分析」『高教探索』2008年, pp.132-135。
- 30 Bo Carlsson, Pontus Braunerhjelm, et al. The Evolving Domain of Entrepreneurship Research[J]. Small Business Economics, 2013(4):913-930.
- 31 MARTIN TRUST CENTER FOR MIT ENTREPRENEURSHIP [://entrepreneurship.mit.edu/courses/](http://entrepreneurship.mit.edu/courses/) (2017年9月25日閲覧)。
- 32 STVP(Stanford Technology Ventures Program) <http://stvp.stanford.edu/courses/> (2017年9月25日閲覧)。
- 33 BABSON COLLEGE <http://www.babson.edu/Academics/undergraduate/Pages/curriculum.aspx> (2017年9月25日閲覧)。
- 34 著者は2017年3月14日にDraper Universityに訪問し、事務局スタッフKIM氏や修士生Elisaにインタビューを行った。
- 35 ドレイパー大学HP: <http://www.draperuniversity.com/executive-program-1/> (2017年9月25日閲覧)。
- 36 「5歳から始まる起業家教育「シリコンバレー流」の壮大な実験」『日本経済新聞』2017年10月7日。
<https://www.nikkei.com/article/DGXBZO45160120Z10C12A8000000/?df=3> (2017年10月9日閲覧)。
- 37 張玉利・趙偉・寺澤朝子「中国のアントレプレナー研究とアントレプレナー教育に関する概観」『アントレプレナーシップの日・米・華比較』創成社, 2007年, pp.92-93。
- 38 主な理由としては、まず基本的に技術進歩により、労働力が過剰になったことである。また、高学歴

をもった地方の学生が都市部に集中し、労働市場が過密な状態となっている。さらに各大学は定員を増やしたり、新たな大学も次々に生まれているので、学生数が急増しているなどが上げられる。

- 39 「創業教育」『人民政协报』2014年9月12日。
- 40 中国教育部 HB : http://old.moe.gov.cn//publicfiles/business/htmlfiles/moe/moe_163/200408/3460.html (2017年9月25日閲覧)。
- 41 「強化高校創業教育」『人民日报』2014年10月27日。 <http://opinion.people.com.cn/n/2014/1027/c1003-25912868.html> (2017年9月28日閲覧)。
- 42 張玉利・趙偉・寺澤朝子(2007)、pp.94。
- 43 張玉利・趙偉・寺澤朝子(2007)、pp.97。
- 44 「清華大学：創新創業教育課程体系成果引人矚目」中国教育和科研計算機網。
http://www.edu.cn/edu/gao_deng/gao_jiao_news/201510/t20151022_1329246.shtml (2017年9月28日閲覧)。
- 45 中華人民共和國教育部「清華大学関与深化創新創業教育改革の実施方案」
http://www.moe.gov.cn/s78/A08/gjs_left/s3854/cxcyjy_ssfa/201604/t20160413_238103.html
(2017年9月28日閲覧)。
- 46 吳小明「高等院校大学生創業孵化器管理模式与实践研究一以南京財經大学為例」『現代管理科学』2017年第1期。pp.103-105。
- 47 向輝・雷家驩「大学生創業教育对其創業意向的影響研究」『清華大学教育研究』(2)、pp.120-124。
- 48 Robb, A., Coleman, S. and Stangeler, D. (2014). Sources of economic hope: Women's entrepreneurship. Kansas City: Kauffman Foundation, pp.3。
- 49 章咪佳「牛津—浙大中国女性創業能力開發項目巾幗園夢」『錢江晚報』2010年11月1日。
<http://www.news.zju.edu.cn/2010/1101/c775a77103/page.htm> (2017年9月28日閲覧)。
- 50 「‘巾幗園夢’ 浙大—牛津中国女性創業能力開發項目卒業典礼順利举行」
<http://www.som.zju.edu.cn/xinwenzhongxin/fenleixinwen/xinwen/29542.html> (2017年9月28日閲覧)。
- 51 女性起業家応援プロジェクト研究会「女性起業家応援プロジェクト調査報告書」平成27年3月、pp.1-2。 <http://www.kansai.meti.go.jp/3-3shinki/woman/2014report.pdf> (2017年9月28日閲覧)。
- 52 女性起業家応援プロジェクト研究会「女性起業家応援プロジェクト調査報告書」平成27年3月、pp.63。 <http://www.kansai.meti.go.jp/3-3shinki/woman/2014report.pdf> (2017年9月28日閲覧)。